

社会進化の比較考古学

—都市・権力・国家—

目次

I 序論	都市と国家をどう捉えるか……………	北條芳隆	11
------	-------------------	------	----

II 各論 各地における都市・権力・国家

社会の進化論の射程

—オリエント文明における「中心」の都市と「周辺」の国家—	……………	有松唯	19
------------------------------	-------	-----	----

インダス文明と「亜周辺」における社会進化

—バッファ・都市・文明・国家—	……………	小茄子川歩	35
-----------------	-------	-------	----

中国初期王朝時代における「中心」の形成

—祖先祭祀の共有と物質文化—	……………	角道亮介	55
----------------	-------	------	----

古代国家形成期におけるモニュメント造営と威信財

—日本列島の事例から—	……………	辻田淳一郎	69
-------------	-------	-------	----

東アジア周縁国家概念の提唱	……………	北條芳隆	85
---------------	-------	------	----

権力分析の異なる位相

—アンデス文明初期における威信財と社会的記憶—

..... 関 雄 二 102

亜周辺の鉄器文化

..... 野 島 永 116

III パネル・ディスカッション

社会進化の比較考古学—都市・権力・国家— 130

司会：北條芳隆

パネリスト：有松唯，角道亮介，小茄子川歩，関雄二，辻田淳一郎

ディスカッサント：野島永

IV 結論 総括と提言 147

■表紙写真■

左：踏み返し鏡の再現実験（北條撮影），右上：ペルー北高地パコパンパ遺跡で発見された「貴婦人の墓」（前700年頃，©パコパンパ考古学調査団），右下：大孟鼎（西周時代，中国国家博物館蔵），下：パキスタン・シンド地方に位置する南アジア最古の都市遺跡モヘンジョダロ（小茄子川撮影）

*本誌ならびにシンポジウム「社会進化の比較考古学」（2020年10月10日・11日の二日間にわたり，オンラインで開催）は，人間文化研究機構プロジェクト「南アジア地域研究」京都大学中心拠点・研究グループ1-A「南アジアの長期発展径路」，科学研究費基金・補助金（19K13402，20K13236，20K01092）による研究成果の一部でもある。